

# 平成26年度宮古群島病害虫発生予報第6号(9月予報)

## I 9月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	40	20	40
平 年 並	40	40	40
低い(少ない)	20	40	20

(平成26年8月21日付沖縄气象台発表・沖縄地方1か月予報)

### 平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	27.4	30.0	25.3	230.0	184.6

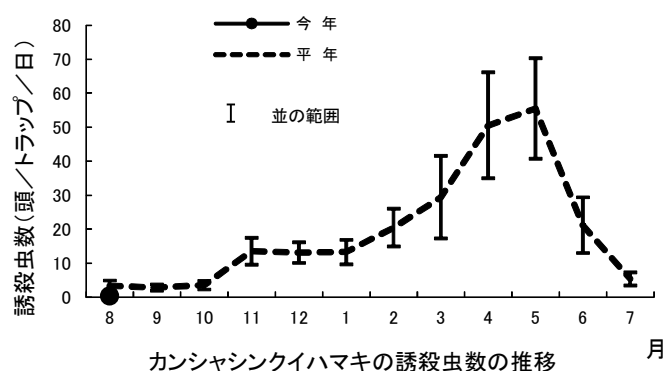
(沖縄气象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

## II 9月の発生予報および防除上の注意事項

### 1 さとうきび

#### ○ カンシャシクイハマキの防除対策

8月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は0.5頭(前年1.4頭、平年3.1頭)と平年よりやや少なかった。

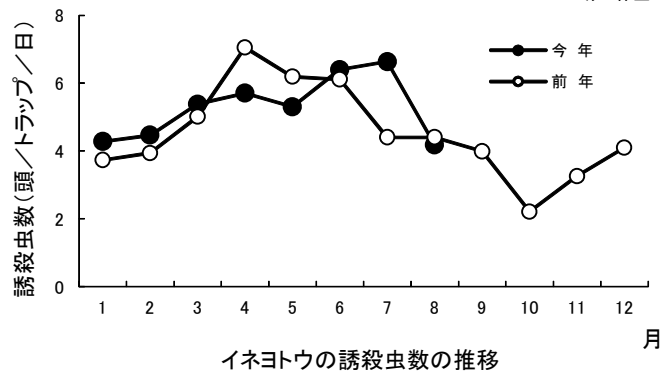


#### <防除上注意すべき事項>

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- c 圃場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- d 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- e 植付け時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- f 平成24年度病害虫発生予察技術情報第3号参照(平成24年6月11日付)。

○ イネヨトウの防除対策

8月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は4.2頭(前年4.4頭)であった。



<防除上注意すべき事項>

- a カンシャシクイハマキの防除上注意すべき事項を参照。
- b 本号コラム「夏植の植付時におけるイネヨトウの防除対策について」(p16)参照。

○ バッタ・イナゴ類の防除対策

- a 一部圃場および隣接草地で発生し、中肋だけが残る食害もみられた。
- b 発生源となる圃場および周辺の除草を徹底する。
- c 被害を確認したら速やかに薬剤防除を行う。
- d 平成26年度病害虫発生予察技術情報第1号参照(平成26年5月30日付)参照。

○ 野その防除対策

- a 8月中旬の調査の結果、被害茎率は0.1%(前年0.6%、平年0.2%)と平年よりやや少なかった。
- b 雑草が繁茂した環境を好むことから、除草を行う。
- c 剥葉残渣などの野積みにもうを築ることから、野積みを行わない。
- d 被害の多い地域では、薬剤による一斉防除を行う。

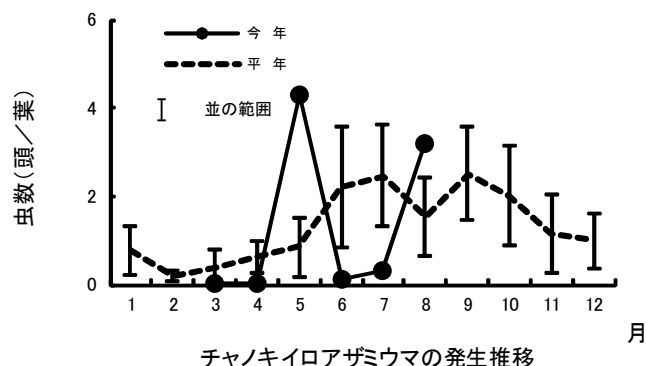
## 2 マンゴー

(1) チャノキイロアザミウマ

発生程度 : やや多

予報の根拠

8月中旬の調査の結果、葉当たり虫数は3.2頭(前年3.7頭、平年1.5頭)と平年よりやや多かった。



<防除上注意すべき事項>

- a 収穫期に発生が多かった施設では、不要な新梢等を除去したのち、薬剤による防除に努める。
- b 剪定後の新梢の発生が早い施設では、本種の発生時期が早くなることから、新梢をよく観察し、初期防除に努める。
- c 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- d 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。